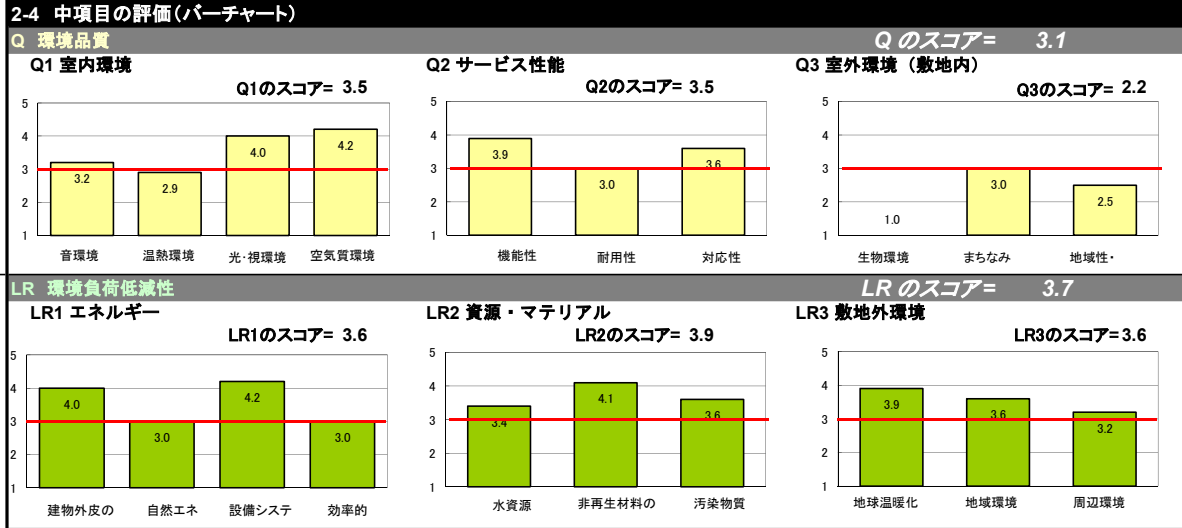
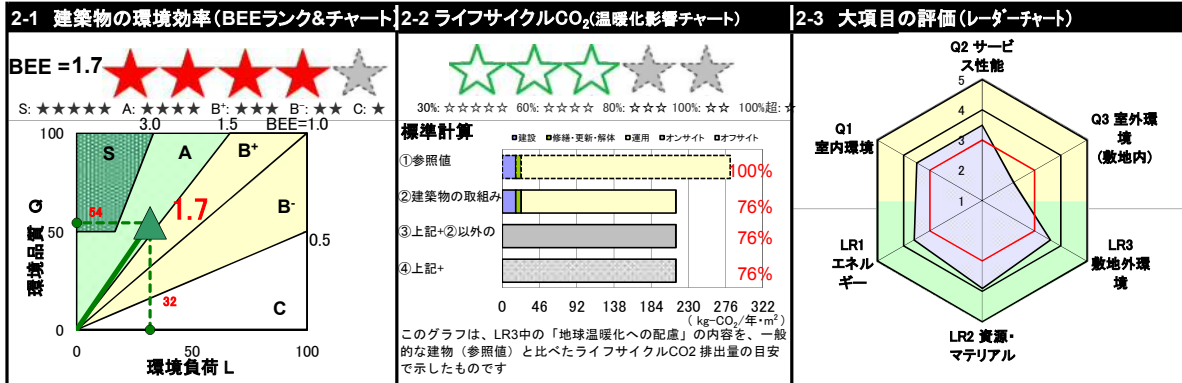


1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	ヤマナカ東海店	階数	平屋建	
建設地	愛知県東海市富木島町前田面31番	構造	S造	
用途地域	第一種住居地域、法22条区域	平均居住人員	70人	
気候区分	6地域	年間使用時間	4,745時間/年	
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2017年10月 予定	評価の実施日	2017年7月14日	
敷地面積	5,888 m <sup>2</sup>	作成者	若本博己	
建築面積	3,329 m <sup>2</sup>	確認日	2017年7月14日	
延床面積	3,025 m <sup>2</sup>	確認者	若本博己	



3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) <b>0.0 %</b></p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) <b>0.0 %</b></p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; <b>なし</b></p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt; <b>なし</b></p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部・居住・宿泊部分		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数		
		<p><b>Q 建築物の環境品質</b></p> <p><b>Q1 室内環境</b></p> <p><b>1 音環境</b></p> <p>1.1 室内騒音レベル 3.2 0.15 - - 3.1</p> <p>1.2 遮音 3.0 0.40 - - 3.5</p> <p>1 開口部遮音性能 3.0 1.00 - -</p> <p>2 界壁遮音性能 - - - -</p> <p>3 界床遮音性能(軽量衝撃源) - - - -</p> <p>4 界床遮音性能(重量衝撃源) - - - -</p> <p>1.3 吸音 天井・壁にロックウール使用 4.0 0.20 - -</p> <p><b>2 温熱環境</b></p> <p>2.1 室温制御 2.9 0.35 - - 2.9</p> <p>1 室温 3.6 0.50 - -</p> <p>2 外皮性能 3.0 0.50 - -</p> <p>3 ゾーン別制御性 3.0 0.17 - -</p> <p>売場・テナント・各作業室・従業員諸室について個別ゾーニング 5.0 0.33 - -</p> <p>2.2 湿度制御 1.0 0.20 - -</p> <p>2.3 空調方式 3.0 0.30 - -</p> <p><b>3 光・視環境</b></p> <p>3.1 昼光利用 4.0 0.25 - - 4.0</p> <p>1 昼光率 3.0 0.50 - -</p> <p>2 方位別開口 - - - -</p> <p>3 昼光利用設備 3.0 1.00 - -</p> <p>3.2 グレア対策 - - - -</p> <p>1 昼光制御 - - - -</p> <p>3.3 照度 - - - -</p> <p>3.4 照明制御 売場・テナント・各作業室等について個別制御、一部人感センサー採用 5.0 0.50 - -</p> <p><b>4 空気質環境</b></p> <p>4.1 発生源対策 4.2 0.25 - - 4.2</p> <p>1 化学汚染物質 F☆☆☆☆製品、VOC考慮建材を全面的に採用 5.0 0.50 - -</p> <p>4.2 換気 3.0 0.30 - -</p> <p>1 換気量 3.0 0.50 - -</p> <p>2 自然換気性能 - - - -</p> <p>3 取り入れ外気への配慮 3.0 0.50 - -</p> <p>4.3 運用管理 4.0 0.20 - -</p> <p>1 CO<sub>2</sub>の監視 3.0 0.50 - -</p> <p>2 喫煙の制御 全館禁煙とする 5.0 0.50 - -</p> <p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p><b>1 機能性</b></p> <p>1.1 機能性・使いやすさ 3.9 0.40 - - 3.9</p> <p>1 広さ・収納性 4.0 0.40 - -</p> <p>2 高度情報通信設備対応 - - - -</p> <p>3 バリアフリー計画 独自 バリアフリー法の誘導基準を満たしている 4.0 1.00 - -</p> <p>1.2 心理性・快適性 3.3 0.30 - -</p> <p>1 広さ感・景観 (天井高) 売場天井3.3m 4.0 0.33 - -</p> <p>2 リフレッシュスペース 2.0 0.33 - -</p> <p>3 内装計画 内装の色彩、デザイン計画を十分にしている 4.0 0.33 - -</p> <p>1.3 維持管理 4.5 0.30 - -</p> <p>1 維持管理に配慮した設計 内外装の仕上材に防汚性の高いものを使用している 4.0 0.50 - -</p> <p>2 維持管理用機能の確保 清掃会社を子会社とし、維持管理に十分な設備がある 5.0 0.50 - -</p> <p><b>2 耐用性・信頼性</b></p> <p>2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 0.31 - - 3.0</p> <p>1 耐震性(建物のこわれにくさ) 3.0 0.48 - -</p> <p>2 免震・制震・制振性能 3.0 0.80 - -</p> <p>2.2 部品・部材の耐用年数 3.0 0.20 - -</p> <p>1 躯体材料の耐用年数 3.0 0.33 - -</p> <p>2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ② 3.0 0.23 - -</p> <p>3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 3.0 0.09 - -</p> <p>4 空調換気ダクトの更新必要間隔 3.0 0.08 - -</p> <p>5 空調・給排水配管の更新必要間隔 3.0 0.15 - -</p> <p>6 主要設備機器の更新必要間隔 3.0 0.23 - -</p> <p>2.4 信頼性 3.2 0.19 - -</p> <p>1 空調・換気設備 3.0 0.20 - -</p> <p>2 給排水・衛生設備 3.0 0.20 - -</p> <p>3 電気設備 3.0 0.20 - -</p> <p>4 機械・配管支持方法 3.0 0.20 - -</p> <p>5 通信・情報設備 多数の通信手段を採用している 4.0 0.20 - -</p>													

<b>3 対応性・更新性</b>				3.6	0.29			-	3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり			梁下4m以上確保している	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			鉄骨造の為、外壁に耐力壁を設置していない	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.1	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②	天井懐スペースにゆとりがある	4.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30			-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.7
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm値0.90	4.0	0.30			-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm値0.74	4.2	0.30			-	4.2
4 効率的運用				3.0	0.20			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.9
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水・省水型器具の積極採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				4.1	0.63			-	4.1
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	エコセメント	5.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ボード、壁紙、ビニル床材	5.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体・仕上材に配管配線を打ち込まないこととする	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆製品、VOC考慮建材を全面的に採用	5.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				3.6
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が一般建物の75%	3.9	0.33			-	3.9
2 地域環境への配慮				3.6	0.33			-	3.6
2.1 大気汚染防止			燃焼器具がない	5.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	大店立地法によりゆとりのある駐輪・駐車場の確保	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			照明士によるプランニングを採用	5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	今回の建築は既存店の老朽化の為、周辺環境に配慮し規模を縮小し2階建を平屋建に変更し建替える計画です。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆製品、VOC考慮建材を全面的に採用、全館禁煙実施等により室内環境に配慮しています。
Q2 サービス性能	バリアフリー法の誘導基準を満たし、内装の色彩、デザイン計画を十分実施し売場天井3.3mで豊かな空間となるように配慮しています。
Q3 室外環境(敷地内)	建物配置・高さ・意匠等について、周辺環境に調和する様配慮した上で街のシンボルとなるような賑わいの空間を提供できるよう計画しました。
LR1 エネルギー	各設備は積極的に高効率で省エネルギーに配慮したものを積極的に採用しました。又運用面においては中長期保全計画を作成し、建物の運用管理を実施します。
LR2 資源・マテリアル	節水型器具やリサイクル品を積極的に採用することで資源や環境負荷の低減に配慮しました。
LR3 敷地外環境	オール電化の建物とし燃焼装置の無い施設としたり、評価にはなりません <sup>が</sup> 室外機や給排気についても屋上に設置し近隣周辺環境へ配慮した計画としています。
その他	建設工事に伴う環境負荷の軽減やゼロエミッションを目指す等、地域環境、地球環境に配慮した施工を心掛けます。